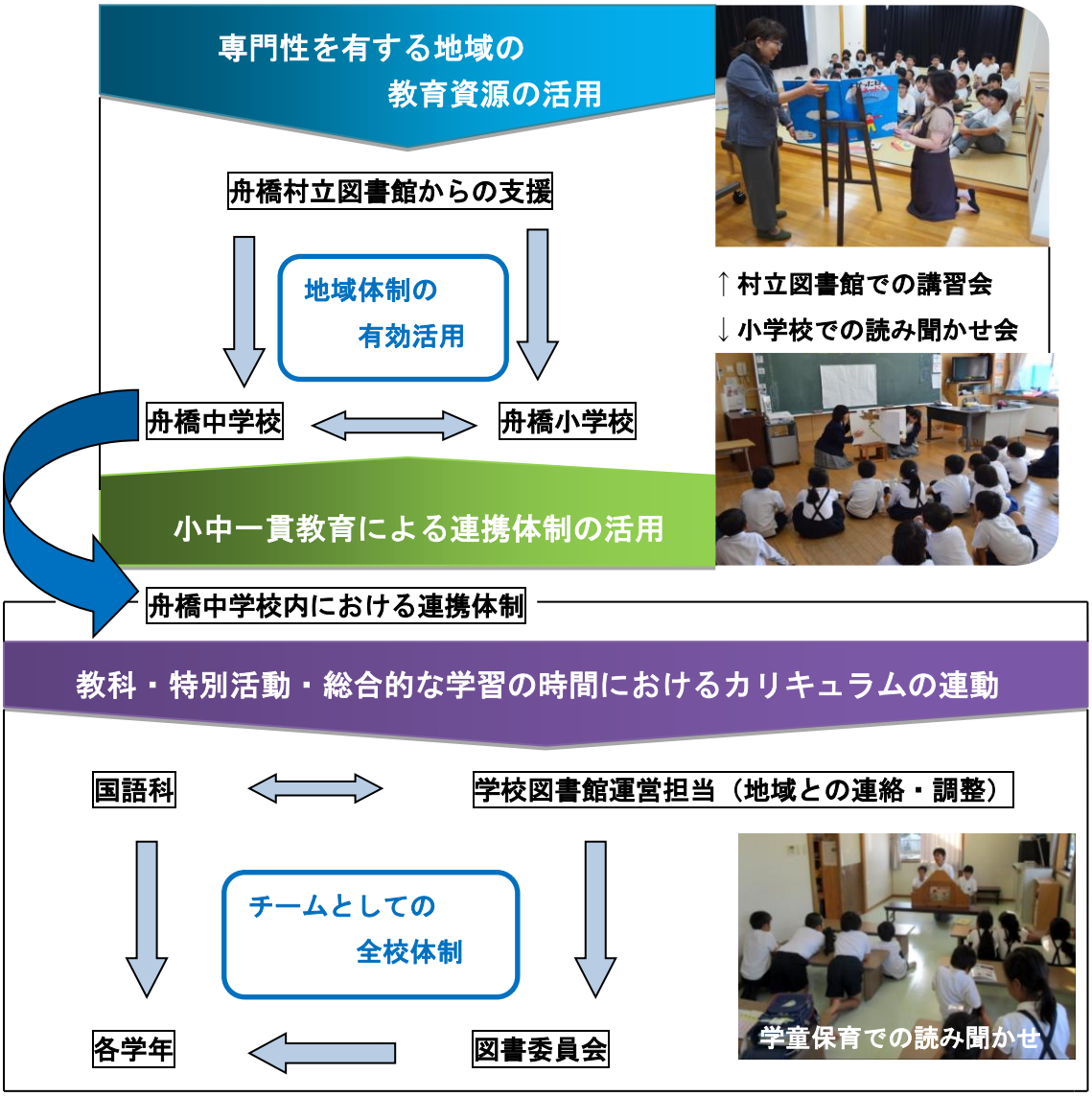
舟橋中学校における読書活動の実践について

1　テーマ「地域で推進する『考え、伝える読書』活動」

2　課題を踏まえたテーマ設定

本校では平成 27 年度から「ノー（No・Know）メディア」に関する取組を開始しており、生徒の心と体の健康について考えてきました。そこで、着目したのが１０年程前から取り入れている「朝読書」の活動です。継続した読書時間を確保してはいるものの、個々の読書量には差があり、好みによって読むジャンルに大きな偏りが生じていました。したがって、生徒の知的好奇心を刺激し、幅広い視野に立った思考を育む方向には進んでいないのが現状でした。そんな課題を解決すべく「メディアに代わる有意義な時間の使い方」として、平成 29 年度より、読書活動の推進を図ることにしました。ただ「読みましょう」と訴えるだけではなく、日頃の学習で習得している言語活動スキルを生かすことで、生徒の意欲を喚起できないかと考えました。「良書は舟中生の師となり、友となる」をキャッチフレーズに「話す・聴く・書く・読む」ことをバランスよく組み合わせた言語活動を軸とすることで、作者や友達のものの見方や考え方に触れ、人としての在り方や自分の生き方について考える読書となることを願って取り組んでいます。また、日頃から本校の図書館運営に携わってくださる舟橋村立図書館、小中一貫教育の視点から連携体制の取れている舟橋小学校、この両者によるご協力及びご支援から「地域」を意識して、上記のテーマを設定しました。



３　テーマに迫る具体的な視点

地域で推進する「考え、伝える読書」活動を実現するため、「地域関係機関との連携」「実践時間の設定」「実践の中心となる指導者の役割分担」をコーディネートし、「①読書習慣の確立」「②学校図書館を活用した情報収集」「③読書活動による思考力・判断力・表現力の育成」から成る３つの視点で取り組みました。

４　実践内容

（１）読書習慣の確立

①　朝読書における「読書通帳」の活用

村立図書館からの助言をもとに、生徒は小学生の頃から「読書通帳」を活用しています。中学校でも「ふなはし読書通帳」として、朝読書を中心に３年間の読書ページ累計や一言感想等を記録しており、時にはそのページ数の多い生徒を発表する「資産公開」にも取り組んでいます。

↑朝読書で通帳を記入する様子

↑累積ページ数上位者「資産公開」

②　小中学生が「読書のよさ」を考える話合い活動

平成 29 年度の 12 月には、小学５年生と中学２年生が「メディアに代わる有意義な時間の使い方」の１つとして「読書」を取り上げ、そのよさだけでなく、活字メディアを苦手とする自分たちの現状についても話し合いました。

↑小５中２合同学習の様子

↑自分たちの読書生活について話し合う様子

（２）学校図書館を活用した情報収集

①　「図書館探検」によるガイダンス

１年生の国語では「図書館探検」を通して、本棚の配置やラベルの見方等を学び、提示された本をグループ対抗で探しました。ゲーム感覚で本を探し当てる活動により、生徒が学校図書館を身近に感じ、利用しようとする意欲の喚起を期待して実施しました。

↑「図書館探検」の様子

② 村立図書館とつながる検索システムを活用した調べ学習の実践

学校図書館の検索システムは村立図書館ともつながっており、校内だけでなく、村立図書館内の本も探すことができます。生徒は朝読書の本や調べ学習の資料を探す際、この検索システムを活用することができます。また、教員が事前に相談することで、村立図書館の方に必要な書籍を富山県立図書館から借りていただくことや、専門的な見知から適切な資料を準備したいただくこともできます。

↑検索システムの説明

↑朝読書の本や調べ学習の資料探し

③ 村立図書館職員から図書委員会生徒への講習

検索システムや本の管理等のため、村立図書館から職員が随時来校され、司書教諭が不在である本校の図書館運営をサポートする役割を担っておられます。図書委員会の生徒の指導にもご協力いただき、学校図書館に必要な環境整備や本の手入れについて、専門家の視点からアドバイスしてくださいます。

↑環境整備等を専門家が指導

（３）読書活動による思考力・判断力・表現力の育成

① 村立図書館による「絵本の読み聞かせ」講習会及び小学校での「読み聞かせ会」の実施

総合的な学習の時間を活用して、１年生全員が村立図書館の髙野館長から「絵本の読み聞かせ」講習を受け、聞かせる相手を意識した上で読みたい絵本を選んでいます。その後、実践練習を重ね、舟橋小学校の全学級を対象に「読み聞かせ会」を実施しています。「目で読む」だけでなく「声に出して読む」楽しさを実感するとともに、生徒の伝えようとする意識が高まっていくのがよく分かりました。ＩＣＴを活用して、自分の読みを客観的に振り返る学習も取り入れています。

↑読み聞かせ講習会

↑読み聞かせ練習

↑小学校での読み聞かせ会

② 「お薦めの一冊」を紹介する帯やプリントの作成と地域展示

友達や家族、地域の方に推薦したい本の帯や紹介プリントを作成し、校内や小学校、村立図書館に展示します。長期休業中は村立図書館から借りた本を対象に実施します。キャッチコピーを考えるなどの工夫を楽しんでいます。他にその本の魅力を伝えることを目的とした表現活動につなげることにより、自身の日常や思いを重ねた深い読みとなりました。

↑本につける帯の作成

↑帯の校内展示

↑紹介プリントの地域展示

③　地域の方々の活躍をテーマとした「舟中　ＢＯＯＫ　ＴＡＬＫ」による学び合い

別紙「『舟中　ＢＯＯＫ　ＴＡＬＫ』の実施について」に記述した詳細の通り、地域の方々の活躍をテーマにした１話完結型のエッセイ集を活用したコミュニケーション活動を実施しています。初回は身近な内容である舟橋村立図書館をテーマに描かれた「寄り添う居場所に ~舟橋村 小さな村の図書館~」（北日本新聞社編「虹５」ｐ156 掲載）を取り上げました。「話す・聴く・書く・読む」すべての言語活動スキルを育てながら、文章中の人物に自身を重ねて思考し、他の意見に触れることで、人としての在り方や自分の生き方について思いを巡らせる流れとなっています。12 月の人権週間でもこの「舟中　ＢＯＯＫ　ＴＡＬＫ」を活用した話合いを実施しました。

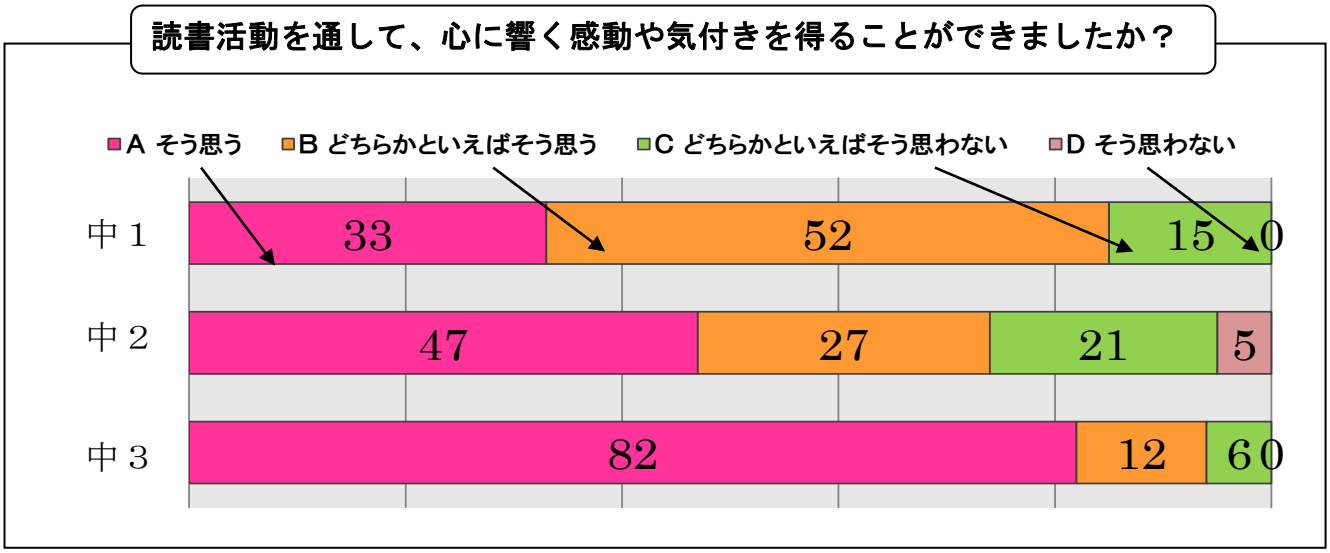
↑自分の意見を伝える様子

↑友達の意見を伝える様子

↑上級生を参観して学ぶ下級生

5　これまでの成果と今後の課題

下のグラフは平成 30 年７月に実施した学校評価アンケート（生徒対象）の集計結果の一部です。



学年が上がるごとに「そう思う」の割合が高くなり、「どちらかというとそう思う」を合わせると、１年生 85%、２年生 74%、３年生 94%となり、大きな成果を感じています。国語科と学校図書館運営担当者を中心に多面的な取組を継続したことで、生徒に「本と関わる喜び」の一端を知ってもらえたのではないかと

思います。しかし、生徒の読書生活に着目したところ、主体的な読書活動への取組や積極的な図書館利用にはまだまだ至っていません。今後、個々の生徒が「読書のよさ」を実感できるように、図書委員会としては「様々なジャンルを紹介するガイダンスの充実」、学級活動としては「朝読書における『時』『場』『雰囲気』の確保」を図っていく必要があります。

新しいものを創り出すような「アウトプット」を可能にするには、自らの語彙を蓄える「インプット」が重要です。思考ツールである言語を支える語彙が不足していては、幼く幅の狭い思考に陥ってしまいます。豊かな語彙力は主体的な学びを生み出します。そして、読書体験がその礎を作ってくれます。また、読書によって、思いやりや感謝、克己心等の人間だけがもつ心の働きを養うことができます。スマートフォンやタブレット等の過度な利用は成長期の脳に大きな影響を与えることから考えても、「メディアに代わる有効な時間の使い方」として、活字メディアである書籍を活用した読書を推進していくことは、中学校生活３年間における「知・徳・体」の育成につながることと思われます。

一度きりの一生において、可能な体験や見聞には限りがありますが、生徒には読書を通してたくさんの方々の人生や考え方と出会い、「対話」することを成長の糧にしてほしいと願っています。舟橋中学校は、前述した「地域関係機関との連携」「実践時間の設定」「実践の中心となる指導者の役割分担」をコーディネートすることで、今後も読書活動の推進を図っていきたいと考えます。

別　紙

「舟中　BOOK　TALK」の実施について

目的

○　「知」の観点から→目的をもって読み、思いや考えを伝え合うことで、「話し上手」「聴き上手」「書き上手」「読み上手」に関する力を育てる。

○　「徳」の観点から→ふるさとに生きる人々の物語を題材に、人としての在り方や自分自身の生き方を考える手がかりとする。

○　「体」の観点から→「考える読書」を体感させる場を確保することで、メディアに代わる有意義な時間の使い方としての魅力を実感する。

使用書籍

○　**「虹―ゆうきのあかりがともるはし―」**　北日本新聞社

「虹」は北日本新聞紙上で毎月１日、丸々１頁を使って掲載されているシリーズで、富山県の出来事や事柄が、誰かの心をつないだり関わり合うきっかけになったりした内容である。１話完結なので、朝読書１回のテーマ読書に活用することができる。

方法

○　最初は国語の時間に実施し、学年段階に応じた「話し上手」「聴き上手」「書き上手」「読み上手」を実践させる。

○　慣れてきたら朝読書５回（１０分×５）を活用して学級担任が実施する。

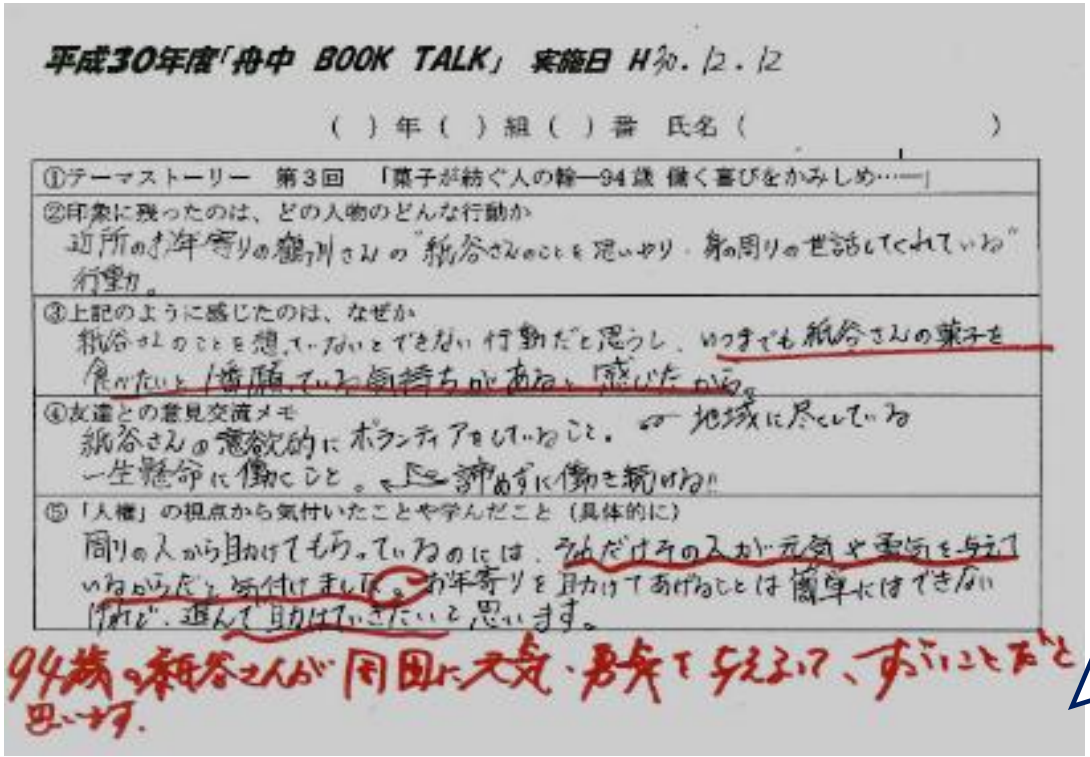
1　指定された話を読む。

2　ワークシート②③に自分の意見を書く。

3　３、４人班で自分の意見を伝え合い、気になった意見をワークシート④に記録する。

4　隣の人とペアになり、意見を伝え合う。相手の意見に対しては必ず感想を返す。
　　前後の人とペアになり、隣の人の意見を伝え合う。相手の意見に対しては必ず感想を返す。

5　もう一度、話を読み直し、学びや気付きをワークシート⑤に記入する。



平成30年度「舟中 BOOK TALK」 実施日 H30.12.12

（　）年（　）組（　）番　氏名（　　）

①テーマストーリー　第3回　「菓子が紡ぐ人の輪―94歳 働く喜びをかみしめ……」

②印象に残ったのは、どの人物のどんな行動か
近所のお年寄りの鶴川さんの"紙谷さんのことを思いやり、身の周りのお世話してくれている"行動。

③上記のように感じたのは、なぜか
紙谷さんのことを想っていないとできない行動だと思うし、いつまでも紙谷さんの菓子を食べたいと願っている気持ちがあると感じたから。

④友達との意見交流メモ
紙谷さんの意欲的にボランティアをしていること。→地域に尽くしている
一生懸命に働くこと。→諦めずに働き続けるね!!

⑤「人権」の視点から気付いたことや学んだこと（具体的に）
周りの人から助けてもらっているのには、そんだけその人が元気や勇気を与えているからだと気付けました。お年寄りを助けてあげることは簡単にはできないけど、進んで助けていきたいと思います。

94歳の紙谷さんが周囲に元気・勇気を与えるって、すごいことだと思います。

ブックトークの目的や方法等を説明したプリント。意見交換の流れは「学び合いスタイル」のステップと同じ。

今年度の人権週間に実施したブックトークの記録。学級担任が目を通した後、「読書通帳」に貼る。